

# 令和4年度学校保健統計調査（確定値） 北海道の概要

令和5年11月

北海道総合政策部計画局統計課

〒060 - 8588 札幌市中央区北3条西7丁目 道庁別館9階  
北海道総合政策部計画局統計課生活統計係  
電話 011-204-5144（ダイヤルイン）  
URL <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tuk/>

## 目 次

I 調査の概要	1
利用上の注意	2
II 調査結果の概要	
1 発育状態	
(1) 身長	3
(2) 体重	4
2 健康状態	
(1) 疾病・異常の被患率等の状況	5
(2) 主な疾病・異常の被患率	6
3 肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率	
(1) 肥満傾向児の出現率	11
(2) 痩身傾向児の出現率	12
4 【参考】肥満・痩身傾向児の算出方法について	13

# 令和4年度学校保健統計調査の概要

## I 調査の概要

### 1 調査の目的

この調査は、学校における幼児、児童及び生徒の発育及び健康の状態を明らかにすることを目的とする。

### 2 実施主体

文部科学省

### 3 調査期間

令和4年（2022年）4月1日～令和5年（2023年）3月31日の間に実施

### 4 調査の範囲、対象及び調査事項

#### (1) 調査の範囲

幼稚園、幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校及び高等学校のうち、文部科学大臣があらかじめ指定する学校（以下、「調査実施校」という。）。

#### (2) 調査の対象

調査実施校に在籍する満5歳から17歳（令和4年4月1日現在）の幼児、児童及び生徒。

区 分	調査実施校数	発育状態調査		健康状態調査
		1校あたりの対象者数	調査対象者数	調査対象者数
幼稚園	44園	44人	1,509人	2,061人
小学校	68校	96人	6,235人	27,624人
中学校	49校	120人	5,355人	17,846人
高等学校	46校	90人	3,991人	27,987人
計	207校	—	17,090人	75,518人

注1) 1校あたりの対象者数は文部科学省が定める人数。ただし、対象者数を満たさない調査実施校においては、全幼児、全児童及び全生徒が対象。

注2) 幼稚園には幼保連携型認定こども園を、小学校には義務教育学校（第1～6学年）を、中学校には義務教育学校（第7～9学年）及び中等教育学校の前期課程を、高等学校には中等教育学校の後期課程を含む。

注3) 発育状態調査は、調査実施校に在籍する児童等のうちから、年齢別、男女別に抽出されたものを対象。健康状態調査は、調査実施校の在学（園）者全員（幼稚園児は5歳児のみ）を対象。

### 5 調査事項

学校保健安全法により実施される健康診断の結果に基づき、児童等の発育状態及び健康状態を調査。

#### (1) 児童等の発育状態に関する事項（身長、体重）

#### (2) 児童等の健康状態に関する事項（栄養状態、脊柱、胸郭及び四肢の疾病及び異常の有無、視力及び聴力、眼の疾病及び異常の有無、耳鼻咽喉頭疾患及び皮膚疾患の有無、歯及び口腔の疾病及び異常の有無、結核の有無、結核に関する検診の結果、心臓の疾病及び異常の有無、尿及びその他の疾病及び異常の有無）

### 6 調査系統（北海道所轄分）

文部科学大臣 ———— 北海道知事 ———— 調査実施校の長

### 7 調査方法

調査実施校の長による自計報告

## 利用上の注意

- 1 本概要は、文部科学省の「令和4年度学校保健統計調査(確定値)」に基づき作成したものです。
- 2 令和4年度については、令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、例年4月1日から6月30日に実施される健康診断について当該年度末までに実施することとなったため、学校保健統計調査においても調査期間が年度末まで延長されています。  
このため、本集計結果は、成長の著しい時期において測定時期を異にしたデータを集計したものとなっており、過去の数値と単純比較することはできません。
- 3 構成比及び比率については、表章単位未満を四捨五入しているため、内訳の合計が一致しない場合があります。
- 4 表中に用いた符号  
「-」 計数がない場合  
「…」 計数出現があり得ない場合又は調査対象とならなかった場合  
「△」 負数(減少)  
「X」 標本サイズが小さい等のため統計数値を公表しない場合
- 5 全国の調査結果(確報値)に係る詳細な集計表は「政府統計の総合窓口(e-Stat)」からご覧ください。  
(<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400002&tstat=000001011648>)

## II 調査結果の概要

### 1 発育状態

#### (1) 身長

令和4年度の身長を全国平均値と比較すると、男子は5歳、17歳で全国平均と同値、9歳で全国平均を下回り、6歳、7歳、8歳、10歳から16歳で全国平均を上回っています。女子は15歳で全国平均と同値、7歳及び17歳で全国平均を下回り、5歳、6歳、8歳から14歳、16歳で全国平均を上回っています。

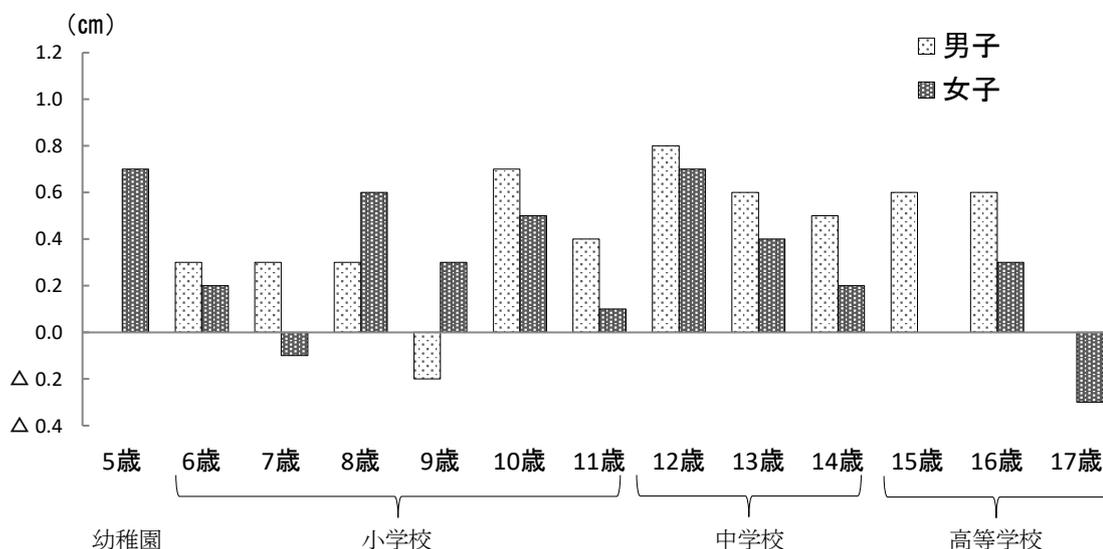
また、男子と女子を比較すると、女子が9歳、10歳及び11歳で男子を上回っています。(表1、図1)

表1 年齢別身長の平均値(全国対比)

区 分		北海道		全 国		平均値 対全国差(a-b)		
		平均値(a)	標準偏差	平均値(b)	標準偏差			
男子	幼稚園	5歳	111.1	5.05	111.1	4.88	0.0	
	小学校	6	117.3	4.94	117.0	4.94	0.3	
		7	123.2	5.02	122.9	5.27	0.3	
		8	128.8	5.27	128.5	5.42	0.3	
		9	133.7	6.22	133.9	5.77	△ 0.2	
		10	140.4	6.61	139.7	6.37	0.7	
		11	146.5	7.23	146.1	7.37	0.4	
		12	154.8	8.11	154.0	7.93	0.8	
	中学校	13	161.5	7.21	160.9	7.32	0.6	
		14	166.3	6.13	165.8	6.43	0.5	
		高等学校	15	169.2	5.71	168.6	5.96	0.6
			16	170.5	5.97	169.9	5.82	0.6
			17	170.7	5.80	170.7	5.80	0.0
	女子	幼稚園	5歳	110.9	5.33	110.2	4.84	0.7
		小学校	6	116.2	4.83	116.0	4.96	0.2
			7	121.9	5.20	122.0	5.24	△ 0.1
			8	128.7	5.79	128.1	5.68	0.6
9			134.8	6.22	134.5	6.44	0.3	
10			141.9	6.88	141.4	6.86	0.5	
11			148.0	6.16	147.9	6.41	0.1	
12			152.9	5.72	152.2	5.73	0.7	
中学校		13	155.3	5.56	154.9	5.43	0.4	
		14	156.7	5.81	156.5	5.32	0.2	
		高等学校	15	157.2	5.19	157.2	5.37	0.0
			16	158.0	5.58	157.7	5.45	0.3
			17	157.7	5.57	158.0	5.42	△ 0.3

注) 標準偏差: データの平均値からの散らばり具合(ばらつき)を表す指標

図1 年齢別身長の平均値の北海道と全国の差



(2) 体 重

令和4年度の体重を全国平均値と比較すると、女子の7歳、17歳を除いたすべての年齢で全国平均値を上回っています。

また、男子と女子を比較すると、男子がすべての年齢で女子を上回っています。(表2、図2)

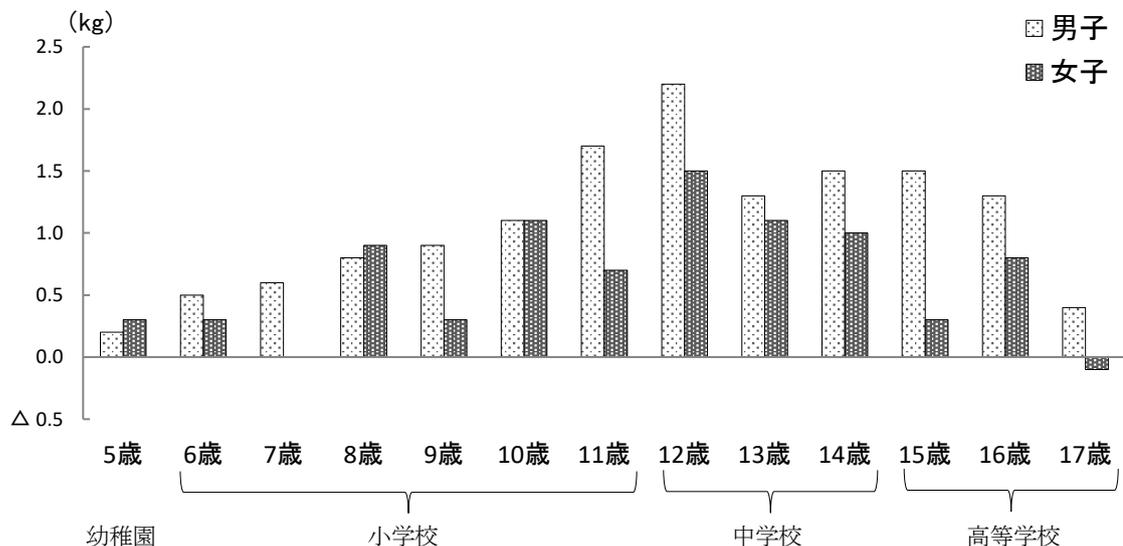
表2 年齢別体重の平均値(全国対比)

(単位:kg)

区 分	北海道		全 国		平均値 対全国差(a-b)			
	平均値(a)	標準偏差	平均値(b)	標準偏差				
男子	幼稚園 5歳	19.5	3.22	19.3	2.85	0.2		
	小学校	6	22.3	4.00	21.8	3.57	0.5	
		7	25.2	5.01	24.6	4.39	0.6	
		8	28.8	6.09	28.0	5.60	0.8	
		9	32.4	7.88	31.5	6.85	0.9	
	中学校	10	36.8	9.25	35.7	8.12	1.1	
		11	41.7	9.24	40.0	9.22	1.7	
		12	47.9	12.07	45.7	10.31	2.2	
		13	51.9	11.13	50.6	10.60	1.3	
	高等学校	14	56.5	11.42	55.0	10.57	1.5	
		15	60.6	12.30	59.1	11.35	1.5	
		16	62.0	12.18	60.7	10.98	1.3	
		17	62.9	11.81	62.5	10.88	0.4	
	女子	幼稚園 5歳	19.3	3.17	19.0	2.75	0.3	
		小学校	6	21.6	3.79	21.3	3.45	0.3
			7	24.0	4.62	24.0	4.19	0.0
			8	28.2	5.79	27.3	5.18	0.9
9			31.4	6.78	31.1	6.32	0.3	
中学校		10	36.6	8.43	35.5	7.41	1.1	
		11	41.2	8.32	40.5	8.06	0.7	
		12	46.0	8.74	44.5	8.04	1.5	
		13	48.8	8.29	47.7	7.84	1.1	
高等学校		14	50.9	8.10	49.9	7.69	1.0	
		15	51.5	8.52	51.2	7.92	0.3	
		16	52.9	8.37	52.1	7.82	0.8	
		17	52.4	8.18	52.5	7.93	△ 0.1	

注) 標準偏差: データの平均値からの散らばり具合(ばらつき)を表す指標

図2 年齢別体重の平均値の北海道と全国の差



## 2 健康状態

### (1) 疾病・異常の被患率等の状況

幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における児童・生徒の主な疾病・異常の被患率等を学校種別にみると、下表のとおりとなっています。（表3）

表3 学校種別疾病・異常の被患率等

区分(%)	幼稚園(5歳)	小学校(6~11歳)	中学校(12~14歳)	高等学校(15~17歳)	
90以上					
80以上~90未満					
70~80				裸眼視力1.0未満 76.4	
60~70			裸眼視力1.0未満 62.1		
50~60					
40~50		むし歯(う歯) 42.4 裸眼視力1.0未満 42.4		むし歯(う歯) 49.2	
30~40			むし歯(う歯) 36.5		
20~30	むし歯(う歯) 25.0				
10~20	裸眼視力1.0未満 17.8	鼻・副鼻腔疾患 10.3			
1~10	8~10				
	6~8		鼻・副鼻腔疾患 7.3 歯列・咬合 7.2 アトピー性皮膚炎 6.4	鼻・副鼻腔疾患 7.8 その他の疾病・異常 6.0	
	4~6		歯列・咬合 5.0 アトピー性皮膚炎 4.8 その他の疾病・異常 4.7 眼の疾病・異常 4.5 歯・口腔のその他の疾病・異常 4.1	アトピー性皮膚炎 4.7 歯列・咬合 4.6	
	2~4	歯列・咬合 3.4 アトピー性皮膚炎 2.8 歯・口腔のその他の疾病・異常 2.1	ぜん息 3.7 歯垢の状態 3.7 歯肉の状態 2.5 心電図異常 2.2	歯肉の状態 3.6 歯垢の状態 3.5 眼の疾病・異常 3.1 ぜん息 2.4 心電図異常 2.0	
	1~2	ぜん息 1.4 その他の疾病・異常 1.1 歯垢の状態 1.1	栄養状態 1.8	蛋白検出の者 1.3	蛋白検出の者 1.9 歯・口腔のその他の疾病・異常 1.1
	0.1~1	0.5~1	蛋白検出の者 0.8 眼の疾病・異常 0.6 鼻・副鼻腔疾患 0.5	蛋白検出の者 0.6 口腔咽喉頭疾患・異常 0.6 その他の皮膚疾患 0.5	栄養状態 0.8 顎関節 0.6 心臓の疾病・異常 0.6 せき柱・胸部・四肢の状態 0.6
0.1~0.5		その他の皮膚疾患 0.4 栄養状態 0.4 歯肉の状態 0.3 心臓の疾病・異常 0.2 言語障害 0.2 耳疾患 0.1 せき柱・胸部・四肢の状態 0.1	せき柱・胸部・四肢の状態 0.4 難聴 0.4 言語障害 0.3 心臓の疾病・異常 0.3 顎関節 0.3 腎臓疾患 0.2 尿糖検出の者 0.1	栄養状態 0.4 尿糖検出の者 0.3 難聴 0.2 耳疾患 0.2 口腔咽喉頭疾患・異常 0.1 腎臓疾患 0.1 その他の皮膚疾患 0.1	
0.1未満	顎関節 0.0 腎臓疾患 0.0	結核精密検査対象者 0.0		結核 0.0 言語障害 0.0	

- 注1) 「口腔咽喉頭疾患・異常」とは、アデノイド、扁桃肥大、咽頭炎、急性又は慢性的症状の喉頭炎、扁桃炎、音声言語異常のある者等である。
- 2) 「歯・口腔のその他の疾病・異常」とは、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂、舌小帯異常、唾石、癒合歯、要注意乳歯のある者等である。
- 3) 「その他の皮膚疾患」とは、伝染性皮膚疾患、毛髪疾患、尋常性白斑、みずいぼ(伝染性軟属腫)等、アトピー性皮膚炎以外の皮膚疾患と判定された者である。
- 4) 「心電図異常」とは、心電図検査の結果、医師が心電図所見を見て異常と判断した者、又は精密検査を要する者である。
- 5) 「蛋白検出の者」とは、尿検査のうち、蛋白第1次検査の結果、尿中に蛋白が検出(陽性(+)又は弱陽性(±)と判定)された者である。
- 6) 「尿糖検出の者」とは、尿検査のうち、糖第1次検査の結果、尿中に糖が検出(陽性(+)と判定)された者である。
- 7) 「難聴」については、6歳から8歳、10歳、12歳、14歳、15歳及び17歳、「結核」については、6歳から15歳、「心電図異常」については、6歳、12歳及び15歳、「尿糖検出の者」については、6歳から17歳のみ実施している。
- 8) 疾病・異常被患率等の標準誤差が5以上、受検者数が100人(5歳は50人)未満、回答校が1校以下又は疾病・異常被患率が100.0%の場合、統計数値を公表しない。

(2) 主な疾病・異常の被患率

① むし歯（う歯）

ア 学校種別に「むし歯（う歯）」のある者（未処置歯のある者と処置完了者の合計）の割合をみると、幼稚園で25.0%、小学校で42.4%、中学校で36.5%、高等学校で49.2%となっており、高等学校で最も高くなっています。

イ 年齢別の割合でみると、5歳から9歳までは年齢とともに上昇し、10歳から12歳まで低下し、13歳以降は上昇傾向となっています。「むし歯（う歯）」のある者の割合が最も高い年齢は、17歳で55.1%となっています。

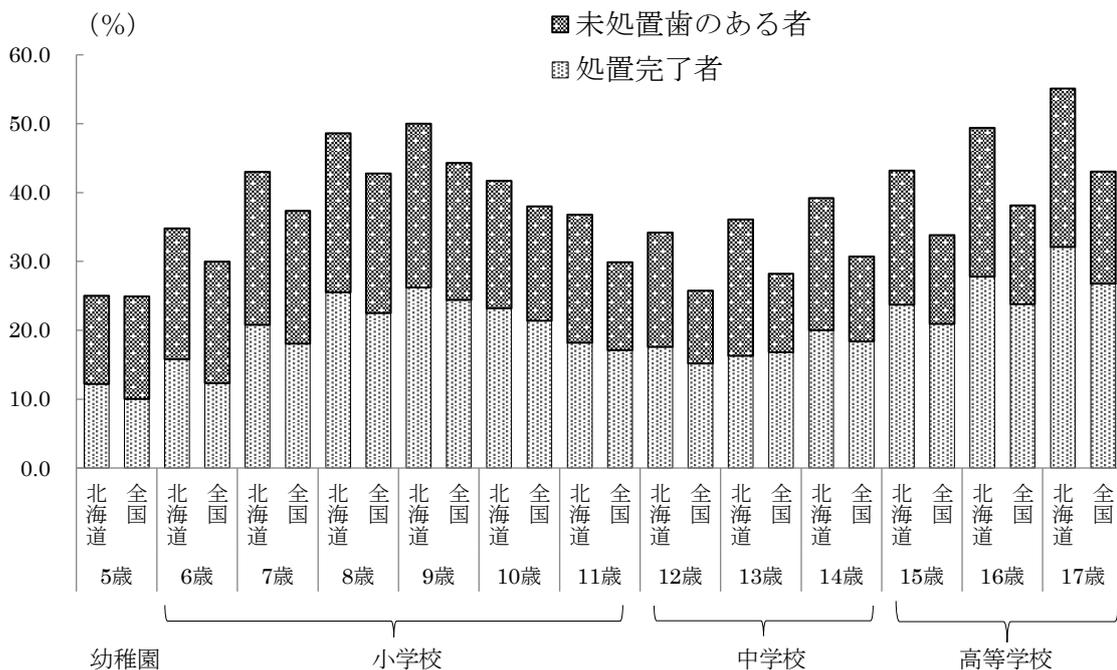
ウ 全国値と比較すると、すべての年齢で「むし歯（う歯）」のある者の割合は、全国値を上回っています。（表4、図3）

表4 むし歯（う歯）のある者の割合の北海道と全国の比較

（単位：％）

区 分	北海道			全 国		
	計	処置完了者	未処置歯のある者	計	処置完了者	未処置歯のある者
幼稚園 5歳	25.0	12.2	12.8	24.9	10.1	14.9
小学校 計	42.4	21.6	20.8	37.0	19.3	17.7
6	34.7	15.8	19.0	30.0	12.3	17.7
7	43.0	20.8	22.2	37.3	18.1	19.3
8	48.6	25.5	23.1	42.8	22.5	20.3
9	50.0	26.2	23.8	44.3	24.4	19.9
10	41.6	23.2	18.5	38.0	21.4	16.6
11	36.7	18.2	18.6	29.9	17.2	12.7
中学校 計	36.5	17.9	18.6	28.2	16.8	11.4
12	34.1	17.6	16.6	25.8	15.2	10.6
13	36.1	16.3	19.8	28.2	16.8	11.4
14	39.2	20.0	19.2	30.7	18.4	12.3
高等学校 計	49.2	27.8	21.4	38.3	23.8	14.5
15	43.3	23.7	19.5	33.9	20.9	12.9
16	49.4	27.8	21.6	38.2	23.8	14.3
17	55.1	32.1	23.0	43.1	26.8	16.3

図3 むし歯（う歯）のある者の割合の北海道と全国の比較



## ② 裸眼視力

- ア 学校種別に「裸眼視力 1.0 未満」の者の割合をみると、幼稚園で 17.8%、小学校で 42.4%、中学校で 62.1%、高等学校で 76.4%となっており、高等学校で最も高くなっています。
- イ 全国値と比較すると、幼稚園を除く学校種別で「裸眼視力 1.0 未満」の者の割合は、全国値を上回っています。(表 5、図 4)

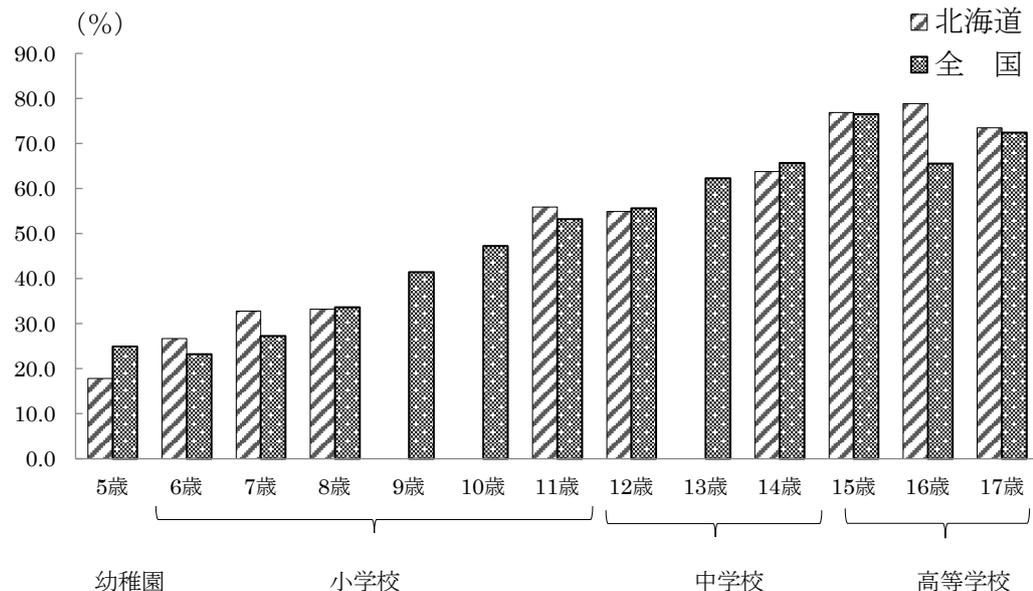
表 5 裸眼視力 1.0 未満の者の割合の北海道と全国の比較

(単位：%)

区 分		北海道	全 国
幼稚園	5 歳	17.8	25.0
小学校	計	42.4	37.9
	6	26.7	23.2
	7	32.8	27.3
	8	33.2	33.6
	9	X	41.4
	10	X	47.2
中学校	計	55.9	53.2
	12	62.1	61.2
	13	54.9	55.6
	14	X	62.3
高等学校	計	63.8	65.7
	15	76.4	71.6
	16	76.9	76.6
	17	78.9	65.6
		73.5	72.4

注) 「X」：標本サイズが小さい等のため統計数値を公表していない。

図 4 裸眼視力 1.0 未満の者の割合の北海道と全国の比較



### ③ 鼻・副鼻腔疾患

ア 学校種別に「鼻・副鼻腔疾患」(蓄膿症、アレルギー性鼻炎等)の者の割合をみると、幼稚園で0.5%、小学校で10.3%、中学校で7.3%、高等学校で7.8%となっており、小学校で最も高くなっています。

イ 全国値と比較すると、全学校種別で「鼻・副鼻腔疾患」のある者の割合は、全国値を下回っています。(表6、図5)

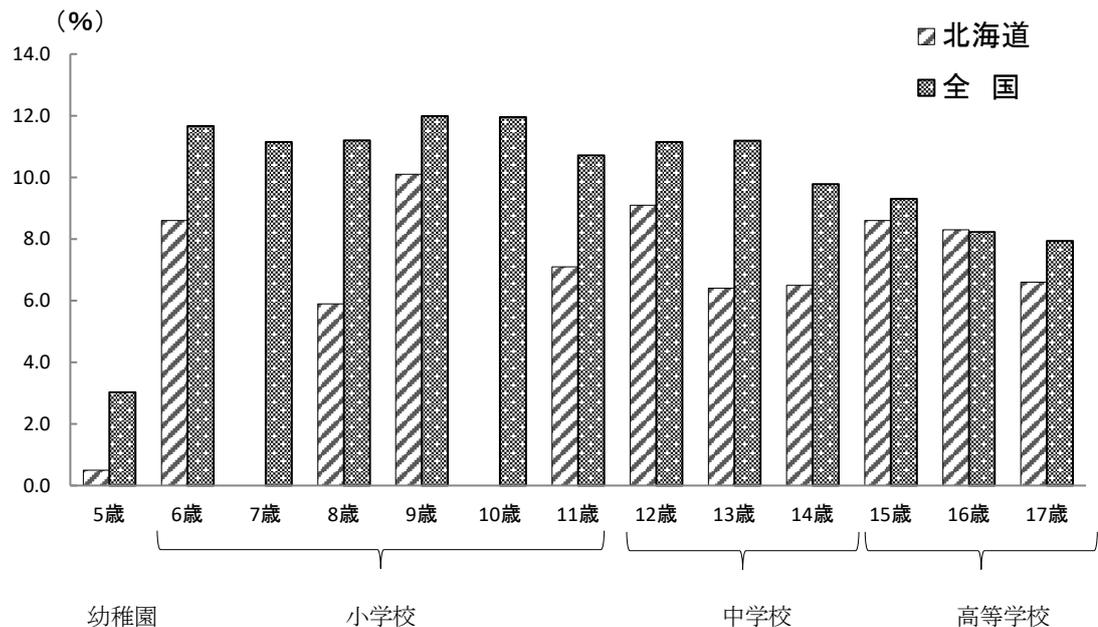
表6 鼻・副鼻腔疾患の者の割合の北海道と全国の比較

(単位：%)

区 分	北海道	全 国
幼稚園 5歳	0.5	3.0
小学校 計	10.3	11.4
6	8.6	11.7
7	X	11.2
8	5.9	11.2
9	10.1	12.0
10	X	12.0
11	7.1	10.7
中学校 計	7.3	10.7
12	9.1	11.2
13	6.4	11.2
14	6.5	9.8
高等学校 計	7.8	8.5
15	8.6	9.3
16	8.3	8.2
17	6.6	7.9

注)「x」: 標本サイズが小さい等のため統計数値を公表していない。

図5 鼻・副鼻腔疾患の者の割合の北海道と全国の比較



#### ④ ぜん息

ア 学校種別に「ぜん息」の者の割合をみると、幼稚園で1.4%、小学校で3.7%、中学校で4.1%、高等学校で2.4%となっており、中学校で最も高くなっています。

イ 年齢別の割合をみると、6歳から14歳、17歳の各年齢で3%を超えています。「ぜん息」のある者の割合が最も低い年齢は、5歳で1.4%、最も高い年齢は13歳で4.5%となっています。

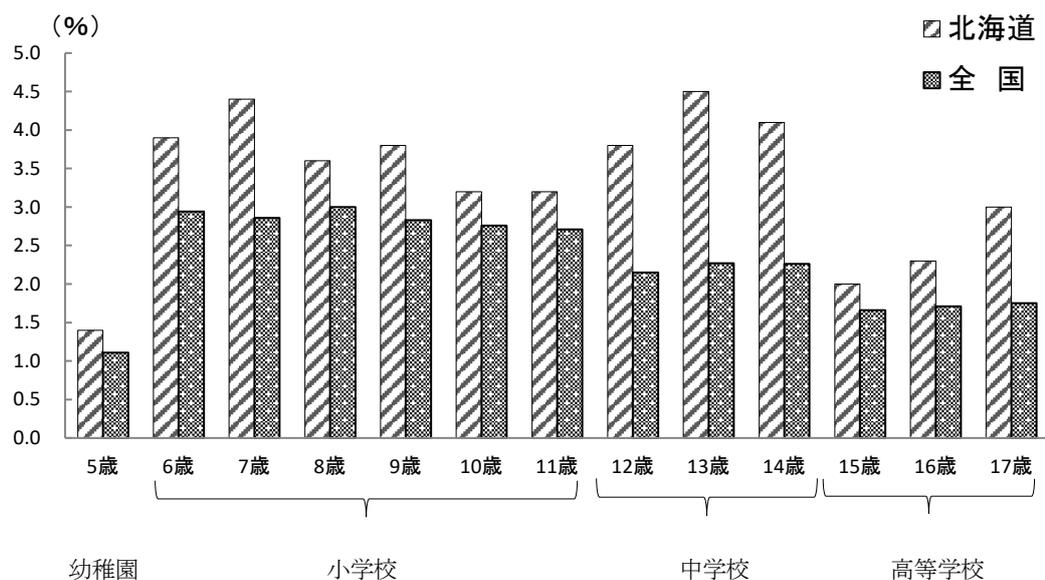
ウ 全国値と比較すると、5歳から17歳のすべての年齢で「ぜん息」のある者の割合は、全国値を上回っています。(表7、図6)

表7 ぜん息の者の割合の北海道と全国と比較

(単位：%)

区 分	北海道	全 国
幼稚園 5歳	1.4	1.1
小学校 計	3.7	2.9
6歳	3.9	2.9
7歳	4.4	2.9
8歳	3.6	3.0
9歳	3.8	2.8
10歳	3.2	2.8
11歳	3.2	2.7
中学校 計	4.1	2.2
12歳	3.8	2.2
13歳	4.5	2.3
14歳	4.1	2.3
高等学校 計	2.4	1.7
15歳	2.0	1.7
16歳	2.3	1.7
17歳	3.0	1.8

図6 ぜん息の者の割合の北海道と全国と比較



⑤ アトピー性皮膚炎

ア 学校種別に「アトピー性皮膚炎」の者の割合をみると、幼稚園で2.8%、小学校で4.8%、中学校で6.4%、高等学校で4.7%となっており、中学校で最も高くなっています。

イ 年齢別の割合をみると、7歳、9歳、12歳から14歳の各年齢で5%を超えています。「アトピー性皮膚炎」のある者の割合が最も低い年齢は、5歳で2.8%、最も高い年齢は14歳の7.3%となっています。

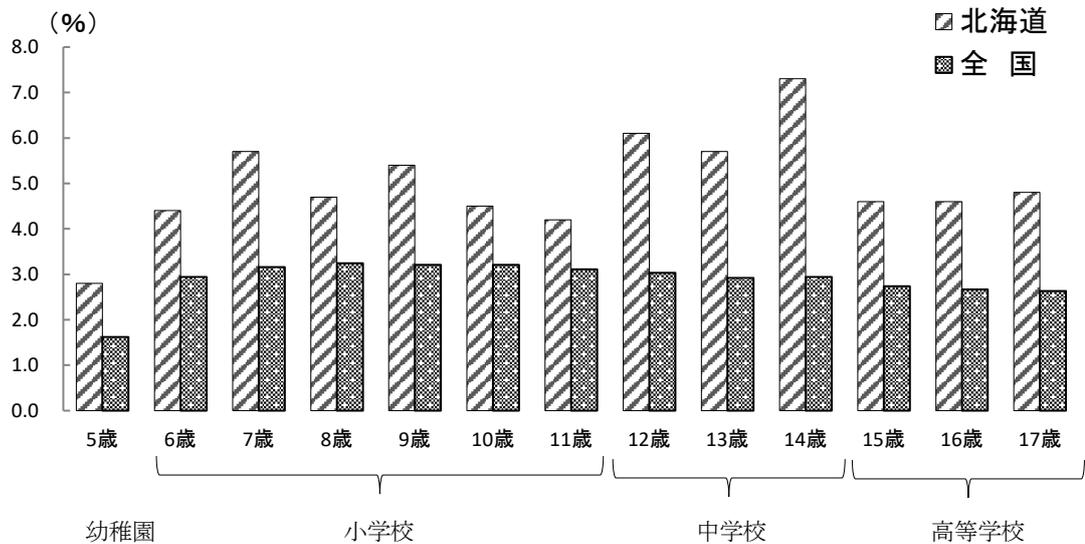
ウ 全国値と比較すると、5歳から17歳のすべての年齢で「アトピー性皮膚炎」のある者の割合は、全国値を上回っています。(表8、図7)

表8 アトピー性皮膚炎の者の割合の北海道と全国の比較

(単位：%)

区 分	北海道	全 国
幼稚園 5歳	2.8	1.6
小学校 計	4.8	3.1
6	4.4	2.9
7	5.7	3.2
8	4.7	3.2
9	5.4	3.2
10	4.5	3.2
11	4.2	3.1
中学校 計	6.4	3.0
12	6.1	3.0
13	5.7	2.9
14	7.3	2.9
高等学校 計	4.7	2.7
15	4.6	2.7
16	4.6	2.7
17	4.8	2.6

図7 アトピー性皮膚炎の者の割合の北海道と全国の比較



### 3 肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率

#### (1) 肥満傾向児の出現率

- ① 年齢別に肥満傾向児の出現率をみると、出現率が最も高い年齢は、男子が11歳で21.8%、女子が11歳で14.5%となっています。
- ② 全国値と比較すると、男女ともすべての年齢で全国値を上回っています。(表9、図8、9)

表9 肥満傾向児の出現率の北海道と全国の比較

(単位：%)					(単位：%)					(単位：%)								
区分		肥満傾向児の出現率			区分		肥満傾向児の出現率			区分		肥満傾向児の出現率						
		北海道	全国				北海道	全国				北海道	全国					
男女計	幼稚園	5歳	4.42	3.64	男子	幼稚園	5歳	4.3	3.6	女子	幼稚園	5歳	4.6	3.7				
	小学校	6	8.65	5.62		小学校	6	9.3	5.7		小学校	6	8.0	5.5				
		7	10.79	7.63			中学校	7	12.8			8.0	中学校	7	8.7	7.2		
		8	14.09	10.13				中学校	8			14.9		11.1	中学校	8	13.3	9.1
		9	14.29	11.41					中学校			9		18.0		13.2	中学校	9
		10	15.99	12.48			中学校	10				17.9	15.1	中学校	10	14.1		9.7
	11	18.21	12.25	高等学校		11		21.8	14.0		高等学校	11	14.5		10.5			
	中学校	12	16.19			11.43	中学校	12	19.0			13.3	中学校	12	13.2	9.5		
		13	13.21			10.68		中学校	13			14.7		12.3	中学校	13	11.7	9.1
		14	12.52			9.55			中学校			14		14.5		11.3	中学校	14
		高等学校	15			12.31		10.13				高等学校		15	15.0	12.5		高等学校
	16		11.39	9.09		高等学校	16	14.0	11.1		高等学校		16	8.7	7.0			
	17		11.31	9.46			高等学校	17	11.9				11.4	高等学校	17	10.7	7.5	

図8 肥満傾向児の出現率の北海道と全国の比較 (男子)

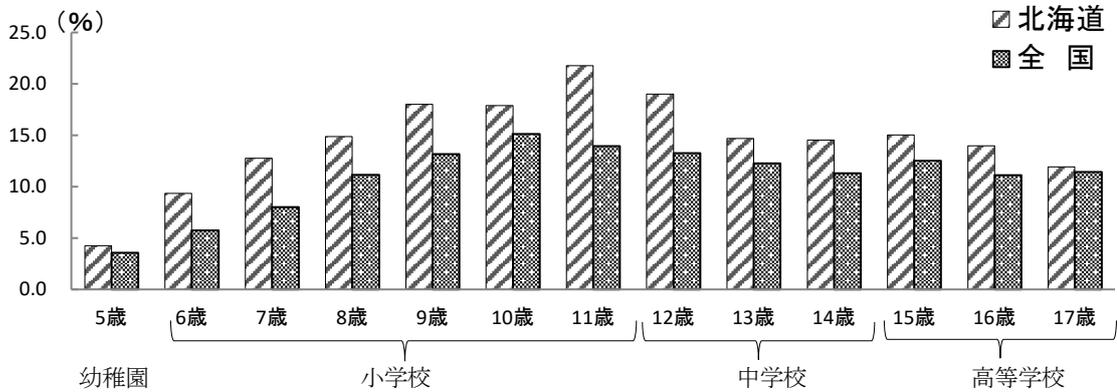
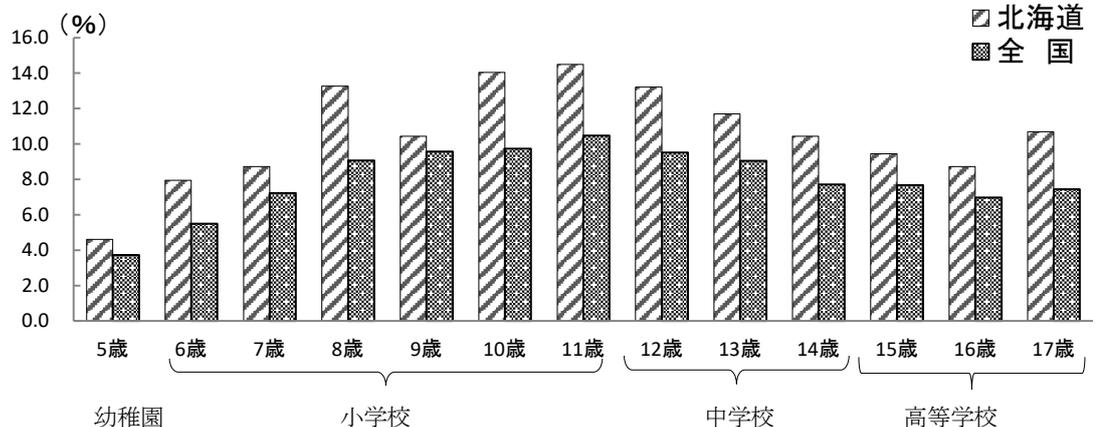


図9 肥満傾向児の出現率の北海道と全国の比較 (女子)



## (2) 痩身傾向児の出現率

- ① 年齢別に痩身傾向児の出現率をみると、出現率が最も高い年齢は、男子が15歳で5.1%、女子も15歳で4.4%となっています。
- ② 全国値と比較すると、男子は5歳、7歳から9歳及び15歳から17歳で、女子では、6歳、8歳、9歳、11歳、15歳及び17歳で全国値を上回っています。(表10、図10、11)

表10 痩身傾向児の出現率の北海道と全国の比較

(単位：%)				(単位：%)				(単位：%)				
区分		痩身傾向児の出現率		区分		痩身傾向児の出現率		区分		痩身傾向児の出現率		
		北海道	全国			北海道	全国			北海道	全国	
男女計	幼稚園 5歳	0.2	0.2	男子	幼稚園 5歳	0.4	0.2	女子	幼稚園 5歳	0.1	0.2	
	小学校	6歳	0.5		0.4	小学校 6歳	0.3		0.3	小学校 6歳	0.6	0.4
		7歳	0.5		0.4	7歳	0.7		0.4	7歳	0.2	0.5
		8歳	1.1		0.8	8歳	0.8		0.6	8歳	1.4	1.0
		9歳	2.0		1.6	9歳	1.5		1.4	9歳	2.4	1.9
		10歳	1.6		2.4	10歳	1.8		2.4	10歳	1.3	2.5
	中学校	11歳	2.8		2.7	11歳	2.3		2.9	11歳	3.3	2.4
		12歳	3.3		3.5	中学校 12歳	3.0		3.2	中学校 12歳	3.7	3.9
		13歳	2.1		2.9	13歳	2.1		2.6	13歳	2.1	3.3
		14歳	2.4		3.0	14歳	2.3		2.9	14歳	2.6	3.1
		高等学校	15歳		4.7	3.8	高等学校 15歳		5.1	4.4	高等学校 15歳	4.4
	16歳		3.5		3.3	16歳	4.2		3.7	16歳	2.7	2.9
	17歳		3.7		2.9	17歳	4.4		3.3	17歳	3.0	2.4

図10 痩身傾向児の出現率の北海道と全国の比較 (男子)

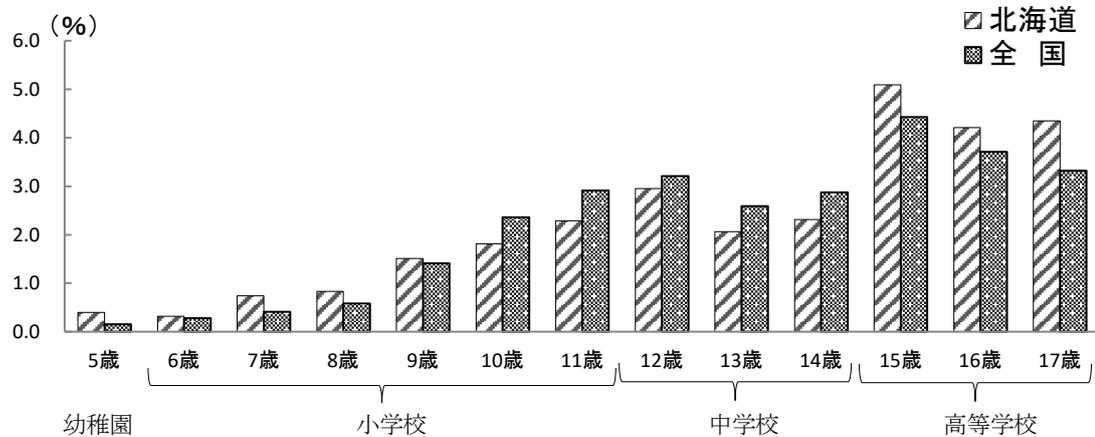
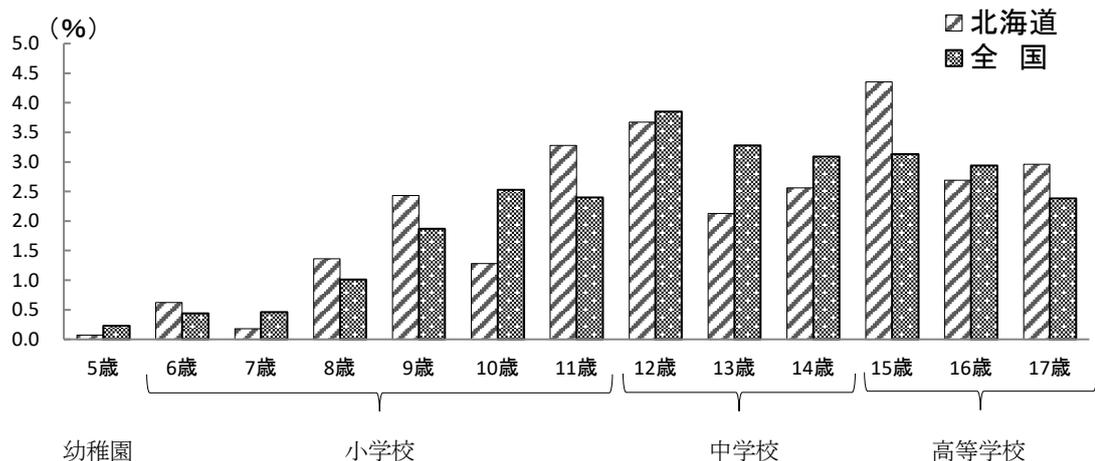


図11 痩身傾向児の出現率の北海道と全国の比較 (女子)



#### 4 【参考】肥満・痩身傾向児の算出方法について

肥満・痩身については、性別、年齢別、身長別標準体重から肥満度を算出し、肥満度が20%以上の者を肥満傾向児、-20%以下の者を痩身傾向児としています。

肥満度の求め方は以下のとおりです。

肥満度（過体重度）

$$= \text{〔実測体重 (kg) - 身長別標準体重 (kg)〕} / \text{身長別標準体重 (kg)} \times 100 (\%)$$

\*身長別標準体重を求める係数と計算式

$$\text{身長別標準体重 (kg)} = a \times \text{実測身長 (cm)} - b$$

年齢	男子		女子	
	a	b	a	b
5	0.386	23.699	0.377	22.750
6	0.461	32.382	0.458	32.079
7	0.513	38.878	0.508	38.367
8	0.592	48.804	0.561	45.006
9	0.687	61.390	0.652	56.992
10	0.752	70.461	0.730	68.091
11	0.782	75.106	0.803	78.846
12	0.783	75.642	0.796	76.934
13	0.815	81.348	0.655	54.234
14	0.832	83.695	0.594	43.264
15	0.766	70.989	0.560	37.002
16	0.656	51.822	0.578	39.057
17	0.672	53.642	0.598	42.339

出典：公益財団法人 日本学校保健会 『児童生徒等の健康診断マニュアル（平成27年度改訂）』

#### 令和4年度調査における平均身長の場合の標準体重（北海道）

年齢	北海道							
	男子				女子			
	平均身長 (cm)	平均身長時の標準体重 (kg) A	平均体重 (kg) B	差 B-A (kg)	平均身長 (cm)	平均身長時の標準体重 (kg) C	平均体重 (kg) D	差 D-C (kg)
5	111.1	19.2	19.5	0.3	110.9	19.1	19.3	0.2
6	117.3	21.7	22.3	0.6	116.2	21.1	21.6	0.5
7	123.2	24.3	25.2	0.9	121.9	23.6	24.0	0.4
8	128.8	27.4	28.8	1.4	128.7	27.2	28.2	1.0
9	133.7	30.5	32.4	1.9	134.8	30.9	31.4	0.5
10	140.4	35.1	36.8	1.7	141.9	35.5	36.6	1.1
11	146.5	39.5	41.7	2.2	148.0	40.0	41.2	1.2
12	154.8	45.6	47.9	2.3	152.9	44.8	46.0	1.2
13	161.5	50.3	51.9	1.6	155.3	47.5	48.8	1.3
14	166.3	54.7	56.5	1.8	156.7	49.8	50.9	1.1
15	169.2	58.6	60.6	2.0	157.2	51.0	51.5	0.5
16	170.5	60.0	62.0	2.0	158.0	52.3	52.9	0.6
17	170.7	61.1	62.9	1.8	157.7	52.0	52.4	0.4